

所属学科：物理情報科学科

氏名：長谷川 大雅

派遣期間：2018年3月4日から2018年3月11日

派遣先：台湾師範大学

1.はじめに

最近では、国際化といいながら、外国語という情報の伝達手法のみを学んでおり、海外の学生や研究者と交流する機会が少ない。本プログラムに参加した目的は、英語を使って海外の学生と交流しながら、どのような研究が行われているかを知ることである。以下に日程を示す。

1日目：オープニングセレモニー、大学内見学

2日目：講義（情報科学と数学）

3～5日目：フィールドトリップ（地学）

6日目：講義（化学実験、生態学）

7日目：プレゼンテーション

2.台湾での生活

台北市は湿気が多く、天候が移り変わりやすいため、個人的には過ごしにくい環境である。夕方はバイクの交通量が多く、歩道に入ってくることもある。観光名所を除けば、当然ながら英語や日本語は通じないので、師範大学の方々と共に行動しなければ、買い物等に苦勞する。また食に関しては、「味付けは日本に近く、食べやすい」というのは日本国内でよく聞くが、文化や好みの違いからか、決して、食そのものが日本に近いというものではない。

台湾での生活において注意しなければならないのは、お手洗いを使用する際、トイレットペーパーをトイレに流してはならないということである。私は一度だけ誤って流してしまった。またトイレットペーパーは個室ではなく、トイレの入り口にある場合があることも注意すべき点である。私は事を済ました後にそのことに気づくことがあった。ポケットティッシュを持ち歩く癖があつてよかったと感じた。

また地下鉄を利用する際にも注意すべきことがある。それを2つ挙げておこう。1つ目は切符を買うときである。おつりがでてくるはずの場所から、おつりとともにコインの形をした切符がでてくるのである。2つ目はその切符の使い方である。行きは改札口にその切符をかざすのだが、帰りは日本のように改札口に通すのだ。これを知らないと通勤ラッシュに巻き込まれてしまうだろう。

3.台湾での講義

普段は物理学を勉強しているので、自然科学について考察するのは得意な方である。だが、他分野の実験やフィールドワークを行った経験はほとんどない。今回のプログラムでは、それらを経験するよい機会となった。また群論を用いてパズルゲームを解くという数学の講義は、抽象的で複雑な数学が目に見え、充実した講義であった。



図1左：プレゼンをしている私である。中央：化学反応を撮影したもの。右：フィールドトリップで見つけた名称の発音が難しい化石の写真である。

4.最後に

本プログラムに参加した目的は前述のとおり、海外の研究を知ることである。しかし、研究よりも、日本で聞く台湾と実際の台湾が大きくかけ離れていたため、そちらの方に目が向いてしまった。人から聞くよりも自分の経験の方が遥かに価値のある情報である。学びの本質はフィールドワークだと感じた。